

# カネミツ EV向け製造加速

モーターの鉄芯部品

加西で新工場稼働



EV向け部品を製造するキーネクストの工場  
＝加西市網引町丸山

自動車部品メーカーのカネミツ（明石市）は、電気自動車（EV）の部品を製造する新工場を加西工場内に建設し、7月に稼働させた。同社はガソリン車に使われるプリー（滑車）の最大手だが、自動車の電動化が急速に進む中で、EV向けの製造を加速させる。昨年10月にEV部品の製造販売をする米澤工作所（姫路市）と共同で運営会社「キーネクスト」を設立。EV用モーターに使用する鉄芯部品を製造する。資本金は6千万円で50%をカネミツが出資。本社はカネミツ本社内に置いている。投資額は約3億円。

「当初は米澤が受注しているモーター部品を製造する」と、カネミツの金光俊明社長。今後は3カ所目の工場建設を計画中のタイなど海外での生産や、自動車以外のモーター市場への参入も視野に入れる。同社は金型を内製しているため低コストで生産できるほか、プリーで大手自動車・部品メーカーと取引があり、こうした利点を活用する。

新工場で製造されるモーター部品の製品例（カネミツ提供）



プリーは10年前までは売上高の9割を占めたが、2023年3月期は47%とトランスミッションや自動車（xEV）用の部品など他の製品が初めてプリーを上回った。ただ、プリー事業から撤退する企業もあるとみられ、残存者利益を狙うほか、国内外でプリーを使う車も一定の比率で残るとみて、三木工場に集約して生産を続ける。

金光社長は「これまでの事業の延長では将来はななく、自動車の電動化という新しい世界に挑戦する。M&A（合併・買収）なども活用してEV用の製品を伸ばしていきたいと話した」（塩津あかね）

※ホームページへの掲載開始日：2023年8月1日  
本記事は神戸新聞社の使用許諾を得て掲載しております。  
株式会社カネミツ